

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2017.3 March vol.38-1

## 笑顔がつくるはつらつ島根 すべては子どもたちの笑顔のため

議員に当選して以来10年、定かということ。国は、一人

例議会では毎回必ず質問をする ひとりよりも国を強くすること  
こととして、活動を続けてきま に向かっていて、一億総活躍や  
した。質問の多くは、子どもや 女性の活躍推進は、言葉では「皆  
女性、高齢者、障がい者の皆さ が活躍できる場を」と言ってい  
んなど、弱い立場にある人たち るように聞こえますが、国力を  
が、抱える課題を中心に取り上 強化するためとしてしか人を見  
げてきました。 ていないことは、現状を見れば

中でも最近気になるのは、私 明らかではないでしょうか。  
たちの子どもや孫、後代の人た 一人ひとりを大切にする視点  
ちに安心して暮らせる地域や社 で、この一年間、質問に取り上  
会をつくっていくことができる げた項目は次のとおりです。

### 平成28年11月定例会

○性的少数者（LGBT）に係  
る問題解決に向けて

○スマホ依存対策

○戸籍謄本等交付事務に係わる  
本人通知制度

○外国人介護人材の受け入れ

○公契約条例の制定

られます。県が軽減の施策を講  
じてもすでにそれ以上の取り組  
みをしている市町村もあるわけ  
ですが、県から支援が受けられ  
ることで、すべての市町村が保  
育料の軽減に取り組み、さらに  
16市町村が県の施策を上回る保  
育料軽減の軽減に取り組みされ  
ていることが明らかになりました。



### 平成28年5月定例会

○高齢者の生活支援

○子どもへの学習支援

○フリースクール

○児童相談所の専門職配置

○被災自治体への支援体制

### 平成29年2月定例会

○保育・幼児教育支援

○食の安全

この2月定例会については、  
内容について以下に報告します。

#### 保育・幼児教育支援

地方創生総合戦略の子育て家  
庭への経済的支援の一つとして、  
所得の低い家庭への保育料の負  
担軽減に取り組みされていますが、  
基本的に保育料は市町村で決め

さらに、保育所幼稚園の保育  
幼児教育の充実に向けての県の  
研修等の支援の取り組みについ  
て質問しました。保育所を管轄  
する健康福祉部と幼稚園を管轄  
する教育委員会がそれぞれに研  
修を行っています。就学前の  
子どもたちがどこにいようと親  
や家族を中心とした社会の中で、  
見守られやすく育つ環境が  
作られるよう保育所・幼稚園の



- 平成28年9月定例会
- 歴史的資料の調査・収集
- リハビリ系専門職人材の確保
- 保育の充実

充実を求めました。

## 食の安全について

昨年県内で2件のミツバチの大量死が起きています。原因は不明ですが、農薬によるものと食の安全性を高めるために、減農薬、無農薬、有機による栽培の促進と、給食などへの使用を求めました。食の安全にこだわります。欧米に比べ日本は農薬の使用量が多く、ヨーロッパ

で制限されている農薬が使われている現状があります。

## 広報部から島根の魅力発信

3月8日の総務委員会では、県の組織改編について議論になりました。それは、新年度の組織改編によって、現在、政策企画局にある広聴広報課を取り出して、広報部を新設し、広報室と県民対話室を置くというものです。

これまでも、政策企画局の機

能を強化して、部局による縦割り

にこだわらない横断的な政策企画、立案を求めてきたところですが、その中であつての広聴広報だと私は認識していません。他の議員からも、広報部設置の明確な意図が見えないと議論になりました。「政策企画から広聴広報機能を別にするということは、横串を2本差すような体制」との声も上がりましたが、まさに、そうなるのではないかと危惧されます。そうならないよう、しっかりと両部局さらには庁内が連携した体制を構築し、「しっかりと広聴広報機能を強化し、島根の魅力掘り起し県内外に発信していく」という執行部の答弁に期待して承認しました。

## 人口減少時代におけるよそ者と地域再生

3月4日に後援会イベントとして、ローカルジャーナリストの田中輝美さんをお招きして講演会を行いました。

ローカルジャーナリストとは、田中さんがネーミングした職業、地方に暮らして地域の話題や課題を取材し発信することをなさっています。

田中さんが最近書かれた修士論文「人口減少時代におけるよそ者との地域再生」をもとに講演をいただきました。

海士町で高校魅力化に取り組んだ岩本悠さんや江津市で起業した三浦大紀さんたちの取り組みを紹介しながら、地域の人たちが何もない、どうしようもないとあきらめている中、インターン・Uターンの人たちが違う視点から魅力を発掘し、それをも

とに地域の人たちと活動を起こし、結果を出していく、その過程が地域再生の鍵であると。

地域再生にだけではなく、様々な課題解決に向かう時のヒントとなるお話でした。

## 説明責任を果たすべき

3月10日の地方創生・行財政改革調査特別委員会では、冒頭、森山健一委員長から、今般、政務活動費の不適切な支出等で問題となっていることについて、皆さんに迷惑をかけているとして陳謝されました。

しかし、この問題に対してきちんと説明責任を果たしていかないのではいかと、大議員から発言があり、私も、「県民が納めた税金の使い道に関わる行財政改革について審議する委員会であることからして、県議会に対する県民の信頼感を回復するためにも、きちんと説明責任を果たすべきではないか」という意見を言わせていただきました。

報道からの質問には書面で答えられており、説明責任を果たしているという森山委員長の発言に大半の委員が納得しない中で休憩を入れた後、記者会見をするということを表明され、委員会を再開しました。

審議終了の最後に、私からは、会見は今議会会期中にされるよう求めました。いつされるのかは、明確にされませんが、県民からは、森山議員だけでなく県議会に対しても不信感をもたれており、信頼回復のためにも、早急に記者会見を開き説明責任を果たされることが必要です。



ローカルジャーナリスト田中輝美さんの講演